

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護三和	管理者	廣川 丈人

法人・事業所 の特徴	「住み慣れた地域で自分らしく安心して過ごせるよう生活(介護)をお手伝いします。」の理念のもと、各々がその人らしい生活が継続できるよう小規模多機能の特性を生かした支援に努めています。人に優しい町(まち)づくりの考えが、地域に根(ね)を張り、広がっていくようにとの願いを込め、月1回「まちのね」活動を開催しています。
---------------	--

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	包括職員	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	1人	1人	1人	1人	2人	1人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の内容を踏まえ、日々の支援内容の意味をしっかりと考え、根拠のあるケアを行う。	事業所自己評価の内容を伝えるように書類を作成し、周知を行うが、今一つの効果を見られていなかった。 ケアの質に関しても、なぜ行うのかを職員1人1人が理解できるようになるまでの学びが足りなかった。	改善計画については、もう少し具体性(いつ、だれが、何を、どうやって等)があったほうが、評価しやすいのではないかと思います。	職員の質を向上させるために、一人で行く訪問も二人で訪問に行き、互いにどのような支援を行っているかを確認する訪問を調整する。また、ミーティングで意見をまとめ振り返りを行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	看板の設置を進める。 事業所の存在を知って頂けるよう立て看板の作成を行う。	看板を作成し見えやすい場所に設置することができた。 三和の名前も入った看板も作成し、サポートセンターであることをアピールできた。 看板の内容をしっかりと作成し、興味を持ってもらえるようなものにしていけるよう、職員全体で検討をしていきたい。	事業所は信濃川も近く、自然環境が良く利用者には申し分ない施設だと思います。 少しでも季節感を感じられる工夫が見られています。 参考資料として普段出入りされている方々へのアンケート結果を付けていただけだったので、とても評価しやすかったです。良い工夫だと思いました。	具体的な看板の内容を検討し、地域への情報発信を行う。 センター内外で季節感を感じられるしつらえを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事への参加を行う。 小学校を始め、これまでの交流の機会を振り返り継続した関わりを行う。	地域の行事は中止となり参加出来なかった。 交流する機会が持てなかったため、日々の挨拶を交わす事が関わりを中心になっていた。	クリーン作戦やお祭りに参加出来るように、これからも働きかけを続けてください。 地域のクリーン作戦への参加は良い機会だと思います。 コロナ禍において、地域とかかわる機会を持つことが難しかったと思いますが、クリーン作戦への参加など、できる範囲で努力されていることがわかりました。	まちのねが開催できない状況にて、自主的な活動を実施していく。(清掃活動など)
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域の方の情報収集を行えるように地域の方、ご利用者の近隣の方、地域のサービス提供に係る方と関わりを持っていく。	ご利用者の主治医と情報共有をする機会を多く持つことが出来た。 主治医との関係性を築き、ご利用者の生活の中で欠かせない体調管理に繋げていく事が出来た。今後も継続的な関わりを行ってきたい。	事業所自己評価「4. 地域での暮らしの支援」でもあるように、特定の民生委員との関わりを持っていることは良いことと思いますが、他の地域の方との関わりを、まずは日頃の挨拶やちょっとした会話等をきっかけに少しずつ広げることで、利用者を地域全体で支えることに繋がれば良いと思いました。 地域に出向くことができない昨今ですが、早く地域と関われる日が来ることを願うばかりです。 1階のフロアを地域のお茶のみ場のような形で、なにか出来ないだろうか。	ご利用者の住まれる地域の民生委員との関わりを持ち、情報共有を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	参加委員の方と情報交換を行い、事業所の取組みに活かす。	書面開催で行う事がほとんどでしっかりと意見交換をすることが出来なかった。 顔を合わせた会議では多くの意見をやり取りできたので、できる限り開催を行いたい。または書面でもやり取りできる方法を検討する。	三和の民生委員さんには運営推進会議に参加してもらっているが、左近の民生委員さんとも交流が出来るといいと思う。 運営推進会議での結果をPRし、潜在的な利用希望者の発掘に努めて欲しい。 書面会議での開催で、なかなか事業所の思いを伝えることが難しく御苦労されていると思いますが、伝わりやすい資料づくりのために様々な工夫をされていることがわかりました。ある意味、対面開催より大変だったと思いますが、ありがとうございました。	対面形式の会議が開催出来ても、参加者の意見を出しやすい様に評価資料を準備する。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時、緊急時に活用して頂けるようにサポートセンターの使用方法を周知する。	年に2回の避難訓練を実施。運営推進会議に合わせて予定を調整していたが感染対策の観点より今回は調整できなかった。 センターの福祉避難所としての活用などを看板に記載し地域へ発信した。もう少し内容を具体化し、伝えて行けるように改めて検討したい。	災害に対する取組みが、今回の資料等でよくわかりました。特に、地域に向けた「災害時の避難について」による情報発信は、地域の方がいざという時に頼りになる存在として安心できると思います。災害時の地域との連携について、地域の方と一緒に考える機会があるといいと思います。(例年は事業所の防災訓練等に地域の方が参加されたりするのでしょうか。 様々な災害を想定しての訓練は行って損はないことだと思います。地域に向けて福祉避難所である事の発信はとてもよいと思います。	看板や回覧板を通じ、小規模三和が福祉避難所として活用できる場所であることをアピールしていく。